世界の子育て紹介　リッチモンドだより　第15回

親ができることは世界共通

日本語プレイグループ「宝島」　須賀 孝子

私と主人のライナーは10年ほど前、２年間長崎に住んでいました。そこでライナーは ALT（外国語指導助手）として、進学校のＨ高校で英語を教えていましたが、カナダでも高校教師をしている彼にとって、日本の高校・生徒・先生の現状に触れるのはとても興味深い体験でした。今ではそのご縁で、毎年長崎へカナダの生徒を修学旅行に連れて行っています。今回は日本とカナダの高校の違いを彼に聞いてみました。

①　カナダの高校システムはどのようなもの？

カナダの高校は、生徒が自分の好きな科目を自由に選択することができるので、日本の大学と専門学校を合わせたようなもの。その科目の単位がその年にとれなくても、次の年に取り直すことができる。科目も勉強するものばかりでなく、写真・木工・グラフィックデザイン・自動車整備など、技術を学ぶものも多い。高校では自分の興味のあることをいろいろと試し、将来なりたい職業を模索することができる。また、ESL（英語が母国語ではない）の生徒たちには英語の基礎クラスもあるし、障害を持つ生徒たちもサポートを受けながら同じ教室で学んでいる。これは、高校が義務教育で生徒の学力に差があり、そして、ESL の生徒が多いカナダならではの、それぞれの生徒を無理なく卒業させてあげられるシステムだと思う。

②　日本の高校システムをどう思った？

生徒の学力レベルが同じなのは良いと思った。ただ、科目が少ないし、テストばかり。しかしそれは、大学入試を目的としたカリキュラムを組まなくてはいけない為だろうと思っている。

③　日本の先生たちをどう思った？カナダの先生はどのような感じ？

教える時間はカナダの先生より短いのに、拘束時間が長い。長期休みにも学校に出てくるのは無駄ではないかと思う。カナダでは部活動の顧問は義務ではないし、部活も週に２，３日しかない。教師を一斉に集めたミーティングもそれほどない。自分の仕事が終わればすぐに帰宅する。日本の先生は生徒たちともっと親密な関係を持っていて素晴らしいが、できない子どもに対してネガティブなことを言うので、生徒が萎縮してしまうと思う。一方カナダの先生たちは生徒を褒めてうまく誘導するのが上手だが、プライベートな問題には干渉しない。カナダの高校では生徒が自分の取りたい科目を選ぶので、先生たちは常におもしろい授業を提供していかないと、自分の科目を取ってくれる生徒が少なくなってしまう。履修生徒が少なければその授業は取り消され、他の科目を教えなければならないので、気を抜くことはできない。また、日本より断然「モンスターペアレンツ」が多く、生徒の怠惰によって単位を落としても納得しないので、その対応も大変。

④　日本の生徒たちをどう思った？カナダの生徒たちはどのような感じ？

落第することは一大事だし、受験もあるので、日本の高校生はとにかくよく勉強する。カナダの生徒は「今年駄目でも来年受けなおそう」という考えから、怠ける生徒もたくさんいる。自分の好きなことしか勉強しない。カナダの生徒たちは覚えることが苦手だけど、日本の生徒たちは覚えるのが得意。逆にカナダの生徒は自分の考えを述べたり、アイデアを考えるのが得意で、日本人は苦手。日本の生徒は先生が見ていなくてもチームワークが良い。また、自分たちで教室やトイレを掃除しているのは素晴らしい。カナダでは全て業者に任せているので、生徒たちは責任感を持てない。

⑤　小さいお子さんを持つ親御さんに、高校入学までに家庭でできることを教えてください。

お子さんが自分に自信を持てるよう、何事も褒めて伸ばしてあげて欲しい。できないことに対して叱ったり罰を与えれば、子どもは自信を無くしてやる気も失います。また、「学ぶ」ということは、「理解する」ということであって、良い成績をとることではないことを知ってください。「理解」することができれば、もっと興味を持って学ぶことができる。興味を抱いたことはどんどん経験させてあげて、達成感を味わわせてあげてください。そこから「学ぶ」ことへの情熱が生まれます。情熱を持ってすれば、自然に成績アップにもつながります。

世界中の国々にはそれぞれの文化と教育制度があり、それに合わせて学校や先生・生徒のあり方も違ってきますので、どこの国のどの制度が良いとは一概には言えません。しかし、彼の最後の質問の答えを聞いて思いました、子どもたちに対して親ができることは世界共通なんですね。